Yokohama Tire Philippines, Inc. CSRレポート

事業内容： タイヤ生産
敷地面積： 447,000m²
従業員数： 2,132人（2013/12/31現在）
所 在 地： IE 5, Clark Freeport Zone, Philippines

相談・苦情などの受付窓口：
Phone: +63 (45) 599-3603　Facsimile: +63 (45) 599-3613
e-mail address : angelina.casasola@ytpi.com / tadashi.suzuki@ytpi.com

社長ご挨拶

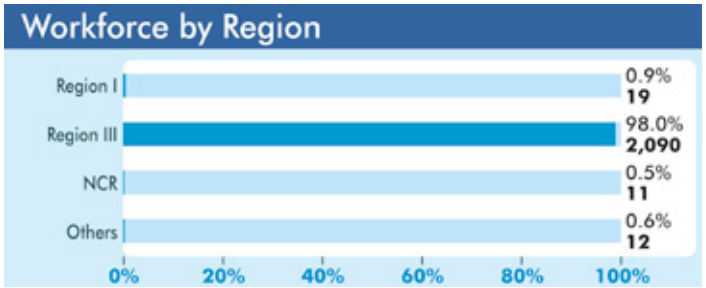
鈴木　忠

「何をできるかを考えよう」
ヨコハマゴムグループはグランドデザイン100（GD100）の方針を共有しています。当社は最高グレードの低燃費タイヤBluEarth（ブルーアース）の生産や、既に6回実施した千年の杜植樹活動など、環境保全を考慮した事業活動を進めてきました。
私たちはマニラから80km程北に位置した工業団地の中でオペレーションをしていますが、騒音、臭気などの環境に影響を及ぼさないように取り組み、近隣の方々と良好で安心できる関係を維持しています。
また、従業員それぞれが、環境・安全に配慮した省エネ・危険予知活動に取り組んでおり、この活動の積み重ねによる「意識の醸成」が大きな成果を生み出していると考えています。
一方、私たちは外部のステークホルダーに向けた活動やイベントを作り上げる、という新しい取り組みを始めています。それは、ステークホルダーのご家族、特に子どもたちが楽しく過ごせる機会の提供とその定着を図っていく、という取り組みです。
このような活動から、私たちのメッセージである、「私たちの商品・サービスは環境保全と社会発展の両方を推進する」を、すべての方々ーお客さま、近隣にお住まいの方々、サプライヤーの方々などーに明確に伝え、理解していただけることを目指していきたいと思っています。

人権

従業員構成

私たちは雇用の機会均等と従業員の多様性の促進に留意して採用活動を行っています。当社で働く2,132人の内、2,067人が正規従業員です。2013年度の従業員の多くは生産現場、技術で働く男性（93.9%）です。女性従業員（6.1%）はほとんどが総務、事務的な仕事を担当しています。51歳以上の従業員は0.3%で、多くは若い従業員（20−40歳）です。従業員に対し、管理職は44人です。
2013年の従業員の新規採用はフィリピンの雇用率の向上に寄与しました。多くの従業員（98%）は第3地区（当社がある中部ルソン地区）の住民です。残りは他の地域（1.5%）、および首都圏（0.5%）から来ています。
各チャートは当社の多様性を示すカテゴリー別の従業員数です。



※）第1地区：北西部のイロコス地区

YTPIのキャリア開発

今年度、チームメンバーからトップマネジメントまで人材の育成と発展により人的資本を増強してきました。これは従業員のキャリア開発に大きく貢献しており、働く場所における、知識、スキル、仕事に対する姿勢の最適化に対する経営努力を明確に示すもので、会社のビジョン、ミッションの達成を支えています。

以下のグラフは従業員のカテゴリー別の毎年の研修時間を示したものです。

Average Hours of Training per Employee by Classification of Training (Functional and Behavioral)

Employee Position	Training Hours / Employee / Year		
	Functional	Behavioral	Organizational
Team Members/ Team Leaders	18	2	18
Supervisors / Senior Supervisors	19	4	17
Section Managers / Department Managers	13	0	3

機能研修は、特定のプロセスにおける専門分野の技術スキル、知識や技能などの機能領域の学習を中心に行っています。行動研修は身体を使って、能力、態度、習慣、性格特性、個人の属性、ソフトスキルの体験学習型の研修です。
これらの研修は、当社が認定したトレーナーが社内外で従業員に対して行うもので、当社の社内研修として位置づけています。その他、外部の研修機関が実施する研修は社内外での実施にかかわらず社外研修として位置づけています。

Average Hours of Training per Employee by Position and Type of Training (Internal and External)

Employee Position	Training Hours / Employee / Year	
	Internal Training	Internal Training
Team Members/ Team Leaders	7	15
Supervisors / Senior Supervisors	8	18
Section Managers / Department Managers	0	13

人権

Average Hours of Training per Employee by Position	
Employee Position	Training Hours
	Employee / Year
Team Members/ Team Leaders	38
Supervisors / Senior Supervisors	40
Section Managers / Department Managers	16

No. of Employees by Position and Type of Traning

Employee Position	No. of Employees / Year		
	Internal Training	External Training	Total
Team Members/ TeamLearders	2539	291	2,830
Supervisors / SeniorSupervisors	831	483	1,314
Section Managers / Department Managers	9	72	81
Total	3,379	846	4,225

労働慣行

2013年安全実績

従業員は、当社の最も重要な財産であり、人命の保護に努めています。この目的を達成するために、安全管理部門（SMS）はトップマネジメント、安全コアチームと一緒に各種の活動を通じて重大事故（Incident）ゼロ達成を目指しています。

リスクアセスメント研修

週に3回、4時間の研修を行いました。安全管理部門（SMS）のメンバーは、先ず横浜ゴムの安全事務局によって行われるリスクアセスメント研修を受け、安全管理者の認定を得ました。その後、安全管理者は安全コアチームの全メンバー、全てのスーパーバイザーに研修を実施しました。安全管理者育成のための研修には、32.59%が参加しています。

労働安全衛生手順書

工場の各職場に配置されていた紙の手順書は、簡単にアクセスできるセンターファイル電子情報に置き換えました。これにより2013年の紙の使用量は半減しました。

「NT-カッターゼロ（フリー）工場」活動

安全管理部門チームの評価でNT-カッターの使用が事故のリスクを高くしていることが分かりました。安全管理部門チームはトップマネジメントと一緒に切創の危険を取り除く代わりのものを調査しました。ほぼ99%のNT-カッターは刃の短いものに代替されました。唯一残っているNT-カッターを使う作業はブローポイントの検査でこれも長い刃を使わなくてすむよう検討中です。
2013年にはNT-カッターによる事故はまったく起こっていません。

第25回国内消防隊競技会と第8回社内消防隊競技会

2013年3月2日にマニラで国内消防隊競技会が行われました。当社のチームは2012年Bクラスで優勝し、2013年はAクラスに昇格しました。また、同年4月23日には社内競技会が行われ品質監査・技術・検査（QAT）チームが優勝しました。2位は加硫・モールドチーム、3位は切断・ビードチームでした。

OHSAS 18001-2007再認証

2013年9月24-27日に再認証のための監査が行われ、3件の軽微な不適合が指摘されました。改善対策を提出し同年10月24日に受理されました。新しいOHSAS 18001-2007の認証がTÜV Nordから発行されました。

工場入口に設置されているセーフティゲート

このセーフティゲートは従業員の安全意識を向上させるためのものです。この試験に合格した人は「安全ワーカー」として扱われます。基本的な安全規則と10の安全ワーカー規則があり、常に必ず守らねばなりません。

労働慣行

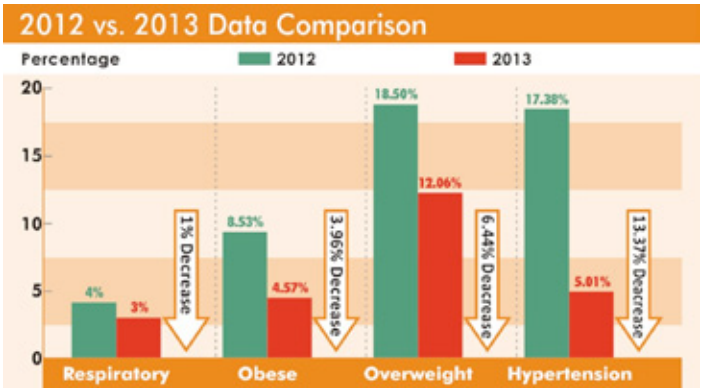
健康意識の向上

健康なライフスタイル推進を継続的に努めています。医療チームは心臓病のリスク低減と肥満の防止のため週に1回の「肉を食べない日(Meet Free Day)」プログラムを紹介しています。また、食堂では肉の替わりにビタミンとミネラルの豊富な魚と野菜が提供され、その成果として、年間を通じてバランスの取れた食事が従業員に受け入れられてきました。

さらに、カロリー消費活動としてズンバ(ラテン風エアロビクス)、ボディーコンバット(空手、ボクシング、テコンドウ、太極拳、ムエタイの合わさったようなもの)、ボディーコンディション(体重を利用した体幹調整と筋肉増強)などを薦めています。

健康な食生活、職場のストレス管理、人間工学、ウィルスによって引き起こされる急性、慢性疾患のB型肝炎などに関する講義も行っています。B型肝炎ウイルス(HBV)は性的なコンタクト、注射針の共用、髭剃り、輸血、出産などの要因で広がっていきます。HBVはHIVよりも100倍も伝染性が強いことが分かっています。

また、1,900人以上の従業員にインフルエンザワクチンを接種し、予防と症状の軽減に努めています。従業員はこの接種を無償で受けられます。HBV、空腹時血糖値、骨密度等のスクリーニングテストを実施しています。以下のグラフがこれらのプログラムが効果を上げていることを示しています。



さまざまな取り組みについて、以下に示します。

環境

環境方針

「地球温暖化の防止と天然資源の保全に貢献します」

この環境方針の実現のため、当社は高品質のタイヤを生産するときのエネルギーやその他資源を適正に管理・使用を行っています。

原材料消費

■東工場

2013年のタイヤ生産は5,634,499本と2012年6,197,796本から減少しました。この9.26%の生産減により原材料の使用量も減少しています。ゴム（天然および合成ゴム）-23.81%、化学品（カーボンおよびそのほか添加剤）-24.75%、繊維と金属-22.96%で、生産量の減少に対してさらに大きく減らしています。これは原材料が効率的に使われたことを示しています。

■西工場

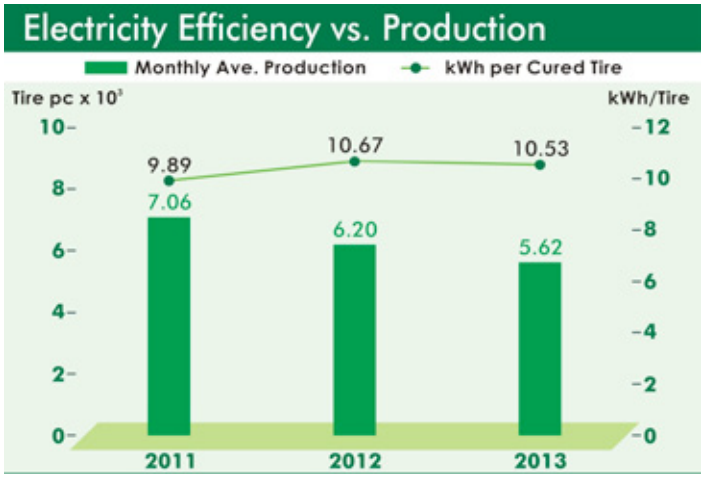
西工場の生産はまだスタートしたばかりで東工場ほど効率的ではありません。多くの材料が機械の立ち上げと試験のために使用されました。西工場では11,202本のタイヤ製造のためにゴム（天然および合成ゴム）1,743.61t、化学品1,371.58tと繊維・金属99tを使用しました。

エネルギー効率

2013年度生産量の減少にもかかわらずエネルギー使用効率は改善しました。これは以下のようなさまざまな省エネ活動の成果です。(A) 省エネ設備の投資、(B) 稼動していない機械部品の識別と補正、(C) 蒸気漏れの発見と修理、(D) クーリングタワーのフローとバルブの修正などを行いました。

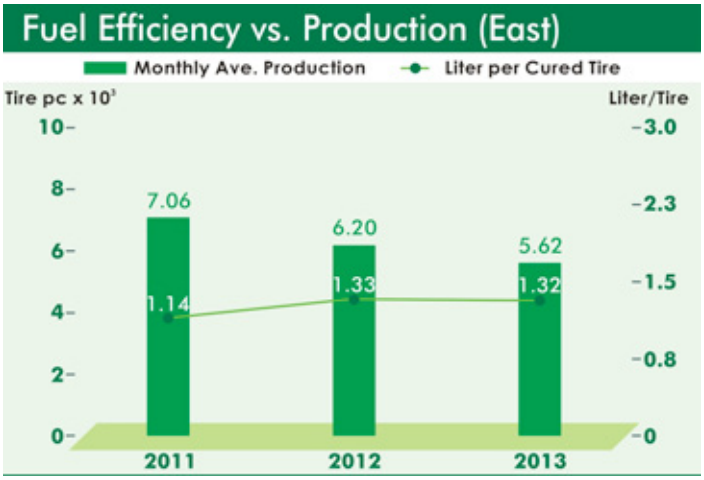
電気

東工場では生産量の減少に伴い、電気使用量も減少しました。昨年度生産量の減少とともに電気使用効率も下がったのとは反対に、2013年度は生産量が減少しても電気使用効率は改善しました。2013年度はタイヤ1本当たり10.53kWhで2012年の10.67kWhから1.31%改善しました。西工場では原材料と同様に電気使用量は多くタイヤ1本あたり東工場の8倍以上の89.56kWhでした。これらの多くは立ち上げのための試作時に使われたと思われます。とは言え西工場の操業で1月は1,021.88kWhでしたが、12月では48.04kWh改善してきました。



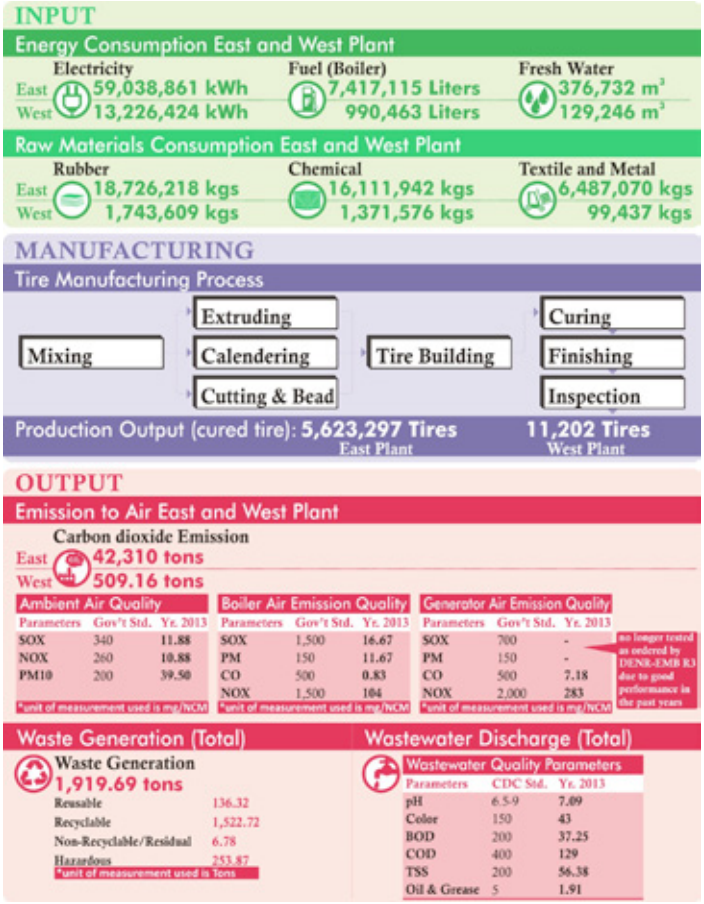
燃料（ボイラー用）

東工場では2013年はタイヤ1本当たり平均1.32Lと2012年の1.33Lから0.83%改善しています。西工場では6.82Lと東工場の5倍以上です。しかし、電気と同じように1月の140.69Lから12月の4.22Lと改善されてきています。



水

東工場では2013年のタイヤ1本あたりの平均水使用量は11月に大幅に改善がなされ、生産量がピークであった2012年上半期と同じレベルになりました。タイヤ1本あたり平均67.2Lで2012年より5.49%改善しました。西工場では900Lで東工場の13倍となりました。とは言え水使用量も1月の13,870Lから12月の620Lと改善が進んでいます。



廃棄物管理

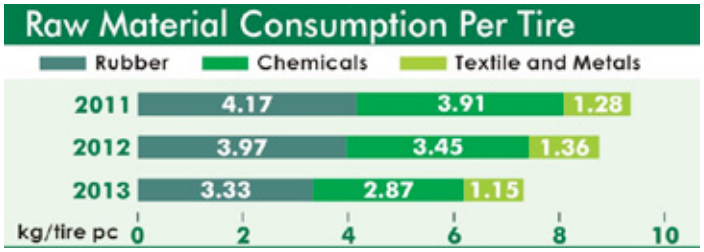
廃棄物は生産工程では避けられないものですが、当社は廃棄物の発生を厳密に管理、制御するとともに適切な廃棄処理を行っています。2013年に発生した廃棄物は1,919.69 t で2012年より8.14%増加しました。これは西工場の立ち上げによるものです。

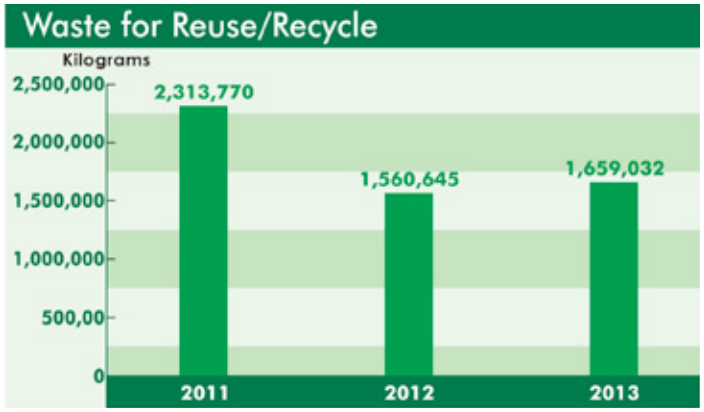
リユース・リサイクル率

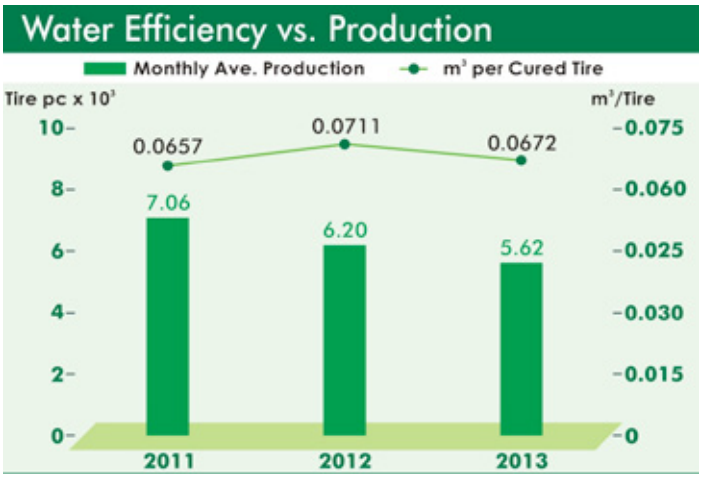
発生した廃棄物のリユース・リサイクルを推進しています。2013年は86.42%でした。これは目標の88.5%に及ばず、また2012年度の88.23%も下回るものでした。この原因は主に産業廃棄物の増加によるもので、2013年3月に排水の水質改善のため水処理タンクのスラッジ除去を行い、23トンのスラッジを廃棄しました。

埋立率

埋立率は発生した廃棄物の内、どれだけの量が埋立処理されたかを示しています。これらはリサイクルできない、非有害、無毒性の廃棄物を処理しています。2013年の目標は0.27%以下でしたが、結果は0.36%でした。これはクラーク開発公社（CDC）からの要請によるラベルの裏打ち材と期限切れのラベルの産業廃棄物が、埋立へ変更されたことによるものです。







省エネ月間

前年度2月に行っていましたが、2013年度は5月に行うことになり以前より準備期間が取れました。テーマは「省エネルギー：低炭素社会と持続可能な地球に向けての活動」です。

・ポスターとスローガンのコンテスト

従業員の芸術的な感性と省エネに関してどのように意識しているかコンテストを行いました。優勝作品は省エネ月間のポスターとして採用しました。

・ジングル作りコンテスト

省エネ月間のメインイベントとして、2013年5月2日に表彰された8つのジングルがライブで演奏され、優勝作品の“Hey！ Are you ready?”は省エネ活動へのみんなの参加を呼びかけるため、昼休みに工場内に流されました。

そのほかの省エネ月間の活動は省エネパトロール、スーパーバイザーによる蒸気漏れ発見・修理、エネルギー監査等を行いました。

・環境月間

2013/6月に各種の環境活動を通じて、従業員に環境保全・保護の啓蒙を図りました。

環境

・環境マネジメントシステムの再教育

この一連の再教育は従業員にISO 14001:2004と環境の一般知識を再確認させることを目的としています。対象者は5年以上の勤務者で、この教育は全従業員が終わるまで取り組みます。

もうひとつのイベントは「環境クイズビー」です。この活動の目的は従業員にISO 14001と当社の環境マネジメントシステムに対する理解を深めることです。
そして3年目の今年、業務における環境と適切な廃棄物管理の知識を得るためのパズル対決「廃棄物ゼロマラソン」を行いました。

Waste Management Orientation

School Beneficiary	Date	No. of Students
Mabiga Elementary School	March 4	100 students
Duquit Elementary School	June 28	100 students
Lourdes Northwest Elementary School	October 7	100 students

・ISO 14001：2004　定期審査

2013/9/24-27にTÜV Nord PhilippineによってISO 14001:2004の定期審査が行われました。2件の軽微な不適合に対する修正報告を提出して、2015/11/11までの認証を得ました。

公正な事業慣行

シリカ配合タイヤ：環境にやさしい原材料

当社は環境保全のため、環境に影響の少ない天然物を原料として使うことを推進しています。このような原材料のひとつが「純粋な砂」と呼ばれるシリカです。シリカを含むケイ砂は世界中にある一般的な砂です。これらはいろいろな工業的プロセスで使用されています。シリカをカーボンブラックの替わりに使うとゴムコンパウンドは特に雪や氷の路面でよいグリップとハンドリング性を向上でき、さらにころがり抵抗を低減できます。ころがり抵抗が低いと燃料消費が減り、CO_2の削減に効果があります。

当社は横浜ゴムの協力を得て、2010年以来、ほとんどのタイヤのトレッドゴムの主要な充填剤としてシリカを採用してきており、その量は20-30PHRから70-80PHRと増加してきています。タイヤにおけるシリカ技術は環境の保全・保護に貢献しています。

消費者課題

■CSR 2013 Product Responsibility

横浜ゴムの中期ビジョン（2012-14年、GD100 フェーズⅢ）に沿って、当社は「未来を考えて、今行動する」の方針の下、「安全な工場、最高品質の製品つくり」に取り組んでいます。そこで、私たちは「原点からの品質」（Quality at source）：有効なモニタリングを通じた積極的な品質改善活動」を行っています。

品質に対する当社のコミットメント

- 我々は「お客様本位の品質と競争力のある価格」で提供できるタイヤを生産します。
- お客様の要望に沿った製品を継続的に提供し続けます。
- 我々は工場の拡張、我々の活動をサポートするダイナミックな力を加えること、特に４Mの基本に重点を置いて、成長し続けます。

これらは当社が最高の品質性能を達成し、横浜ゴムグループのNo.1子会社になるビジョンの実現化を目指す取り組みと考えています。

YTPI品質月間(2013年11月)

YTPIの2013年度品質月間は「客先志向の品質：４Mプロセスの継続的な改善によりお客様の刻々と変化する要求に対応する」をテーマに実施されました。
これは横浜ゴム社長が品質月間に向けて示した「お客様志向の品質としての良い品質。」と共に、次工程はお客さまという考えを常に念頭においています。
いくつかの新しい活動が行われ、YTPIの従業員に製品品質の重要性の認識を向上させました。

決められたことを守るだけでなく製品の品質を向上するためにコミットすることと高品質のタイヤを生産供給するためにできる限りベストな仕事を提供することを目標としています。

・マスコット競争
・品質パレード(オープニング)
・品質冒険チャレンジ
・品質守護神
・クイズビー
・ポスター作成コンテスト

YTPIの品質月間の活動の結果については、YRCの野地社長から高い評価を得ており、特に①工程がリードする品質改善、②YRCの全工場が共有する流出防止とトレーサビリティのシステム、③「教育／研修／試験／資格／承認」の人材開発システムにおいては高い評価をいただきました。

YTPI品質監査の実施

第一、第二、第三者監査の要求、YTPIが承認されているOEの要求などの地域または国際的な品質管理基準に沿って、品質監査部門のKPIのひとつとして実施しています。

内部品質監査

YTPIは毎年ISO/TS16949及びISO 9001の要求に基づき内部監査を行っています。

サプライヤーおよびお客さまの監査

2013年3月にサプライヤーとお客さまの良好な関係の構築のためにクライスラーの監査を受けました。監査員の方からは各工程のパフォーマンスに対して良い評価をいただきました。

品質システム監査

YTPIは外部の認証組織のQMS監査を毎年受診しています。

YTPIスクラップ削減活動「決戦」

工場運営部門は東工場の実際の稼働状況を観察して基準を作成し、削減または完全なゴミゼロを目標に「スクラップ削減」の改善活動（決戦I）を2013年6月に開始しました。

決戦キャプテン（工場長）は改善チームにまずは直ちにプロセスの標準化を決戦Iの後に集中的な注力するよう薦めました。

2013年の西工場の生産開始により決戦の意識は高まり、2013年12月には決戦IIが掲げられました。この活動は東工場と西工場の競争でゴミ削減の加速と標準化を目標としたものです。

結果

合戦Ⅰ：2013年7月　ベンチマークの5月に対して45%削減達成

合戦Ⅱ：2013年12月　工場の歴史始まって以来最も少ないゴミの量を達成しました。

YTPIが再発防止活動を採用（PYB分類）

PYBシステムは品質問題を分類して適切な活動を直ちに実施し問題を解決して同様の問題の再発防止を目的としたものです。

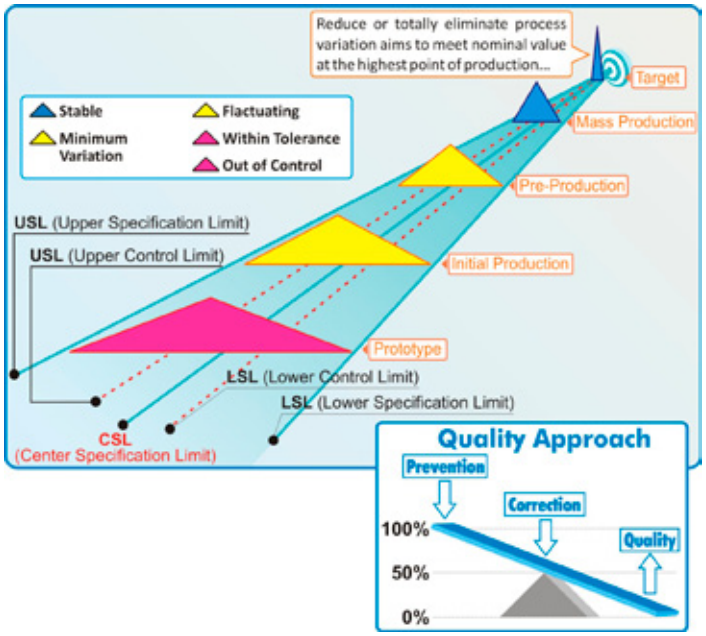
P-Y-B定義

（P）ピンク、未解決事項

（Y）黄色、モニタリング中

（B）青、解決事項

品質問題防止を目的としたPYBシステムはプロトタイプから量産までのばらつきの低減を目標に製品性能の安定化を図ることとリンクしています。



When quality trouble occurs, its countermeasure activities shall be classified into the three stages of P(pink), Y(yellow) and B(blue) depending on the degree of progress (Note 1):

P Countermeasure in progress	production, shipping is suspended — or — root causes are not identified or effectiveness of interim measures are under confirmation
Y Interim measures have been taken	outflow is prevented — and — effectiveness of countermeasures is under confirmation
B Recurence prevention has been completed	permanent measures with hardware are completed — or — procedures, work instructions are already issued and stable operation is ensured B is separated into: • B1: Outflow preventive action has been completed • B2: Occurence preventive action has been completed

フィアット-クライスラーグループから2012APAC　Perfect Quality Awardを受賞

2013年9月にYTPIはフィアット-クライスラーグループから以下の4つの要求を満たしたものに送られる「2012APAC　Perfect Quality Award」を受賞しました。

1. アジアパシフィク地区（APAC）のサプライヤー
2. ヤードを持たない中で満点の品質評価
3. 年間100万ドル以上の販売量
4. Vイニシャチブを持って、共同して迅速に対応した。

この表彰はYTPIのメンバーが継続的に品質を維持し、高品質商品の生産に取り組んでいることを証明しました。

Yokohama Tires - Philippines

コミュニティへの参画及びコミュニティの発展

社会への貢献

2013年は給食活動、奉仕活動、医療活動を通じて“Show you care. Give a share.”（あなたが心配していることを一緒に解決しましょう。）活動に注力しました。
CSR・環境の活動として、私たちに何ができるか考え、周辺地域の方々の意見を聞き最新の情報を得て、良いコミュニティ内の関係を保つため、心配事について直ちに応えていくことを進めてきました。困っている人たちを援助するためには毎年改善が必要で、ほかの会社やステークホルダーとも協働していくことを目指していきます。

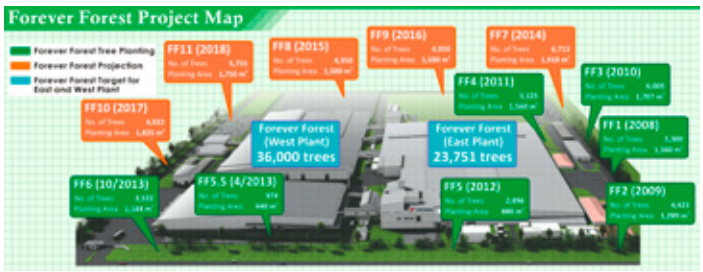
学校や環境団体とのパートナーシップの取り組み

環境保全のためにコミュニティと一緒に活動するため、当社は学校や環境団体とパートナーシップを始めました。

2011年から実施している「廃棄物管理オリエンテーション」は子どもたちがゴミを適切に処理する手助けになり、学校で最も求められる活動のひとつになっています。毎回オリエンテーションの終わりには、学んだことを活用するためゴミ箱を寄贈しています。
今年は3つの学校でこのプログラムを実施しました。
3月4日：マビガ（Mabiga）小学校
6月28日：デュクイット（Duquit）小学校
10月7日：Lourdes Northwest小学校
これらの学校はいずれもパンパンガ（Pampanga）地区の学校です。

千年の杜（6年目の取り組み）

横浜ゴムは2007年から、創立100周年に当たる2017年まで世界中で50万本の苗木を植える、千年の杜活動をスタートさせました。当社は2008年に開始して現在まで毎年継続しています。
2013年10月19日に6回目の千年の杜活動として西工場の原料倉庫の前に植樹会を開催しました。
当社の従業員及び家族、販売会社のYTSPI従業員、タイヤのディーラー、インド工場（YIN）の研修生を含めて444名が参加しました。1,184平方メートルの土地に34種類の苗木、計3,522本を植樹しました。そのうち幾つかは横浜国大名誉教授で環境活動家である宮脇昭教授の“その土地の「自然植生」を行う”という方針に沿ってフィリピン特有の樹木を使っています。86%の苗木は自分たちで育てたもので、その50%の種はこれまで植えてきた千年の杜から採取したものです。
これまで累計で8,274本の苗木を、8,892平方メートルの土地に植えており、この活動は2017年まで続ける計画です。



CSR/環境システムの支援システム

グローバルコミュニティのメンバーとして信頼される組織を構築するため、重要な社会的責任（SR）の評価と計画を行うシステムを確立しました。我々のCSR環境推進システムはCSR/ビジネス運営部門に支えられあらゆる活動でも一貫した高いレベルの環境マネジメントを実施しています。

災害対応

2013年11月5日にCebu-Bohol地震の被害者に対してYRC／YTSPI／YTPIはフィリピン赤十字を通じて80万ペソの寄付を行いました。また当社の従業員も募金活動を行い、6.8万ペソを集め11月15日に同じく赤十字を通じて寄付を行いました。

台風ヨランダの犠牲者に対しYTPIは東ビサヤス（Visayas）の救済資金として70万ペソの寄付をフィリピン赤十字とワールドビジョン（各35万ペソ）に行いました。
12月10日には従業員の募金活動の結果として赤十字を通じて9.5万ペソの寄付を行いました。

トイレ建設

Mabalacat, Pampanga地区のDuquit小学校に手洗い場の付いた3つのトイレを贈りました。2013年11月12日から984人の生徒が使っています。この活動はきれいな環境、安全で勉強しやすい雰囲気を生徒たちに与えています。

トイレ建設のための寄付

奨学金プログラム

教育のため授業料だけでなく、本代、諸経費、および毎月の手当てを含めた奨学金制度を設け、この奨学金制度を通じて学業（工学・情報分野）でよい成績を納めた学生には、卒業後、当社に入社できる機会を設ける、という活動を行っています。当社はセントルイス大学（SLU）と公式な奨学金制度立ち上げについて、2013年9月13日に覚書を締結しました。
また、2013年5月17日にはターラック（Tarlac）州立大学（TSU）とも同様の覚書を結んでいます。2013年8月13日に5人の工科系学生がTSUの公式な奨学生になりました。

コミュニティへの参画及びコミュニティの発展

YTPIのマネージャーたちはLMCとCSRと共に2013年12月16日-18日ホリデーシーズンの精神に基づき、ガンと闘う人たちのための基金、女性や子どもたちの保護施設、Munting Tahanan ng Nazarethなど近隣の団体への奉仕活動をしました。小さな集会が開催され、当社から薬、衣類、スリッパ、日用品、米などが団体に寄贈されました。

2013年12月16日　ガンと闘う人たちのための基金
2013年12月17日　女性や子どもたちの保護施設
2013年12月18日　Munting Tahanan ng Nazareth

Institution	Location	Date	Beneficieries	Background	Donated Items
Cancer Warriors Foundation	Lubao Pamp.	Dec. 16	53	children diagnosed with cancer	medicines & rice
Haven for Women and Children	Magalang, Pamp.	Dec. 17	85	rehabilitation to abuse and exploited girls	electric fan, clothes slippers, grocries & rice
Munting Tahanan ng Nazareth	Mabalacat, Pamp.	Dec. 18	42	children with disabilities and special needs	electric fan, grocies & rice

医療ミッション

Unilab and East West HealthCare Inc.,と協力し、当社の医療設備などを使って、2013年には2回の地域の健康・安全に貢献する医療支援を行いました。合計500人の住民が医療指導、薬の配布を受けました。

2013年4月27日　Brgy. Tabun (200人)
2013年11月13日　Brgy. Atlubola (300人)

給食プログラム

Angeles Nutrition Action officeと協力し、地域の子どもたちの栄養状態の改善のため、Pineda Gutierrez小学校で深刻な低体重の53人の生徒に対する給食プログラムを開始しました。このプログラムは2013年9月4日ー12月9日まで60日間暖かい食事とサプリメントを供与するものです。53人全ての生徒の健康状態のチェックを同時に行い、12月9日には96%、50人の生徒は正常な体重になりました。